

2014年11月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500 hPa 高度は、ヨーロッパ北部からロシア西部、日本付近、アラスカで正偏差、西・中央シベリア、北米東部で負偏差となった。亜熱帯ジェット気流は、中国東部から日本付近で平年と比べて弱く、日本の東海上で北に蛇行して流れた。帯状平均した気温は、対流圏では全般に正偏差となった。アリューション低気圧は平年より強く、シベリア高気圧は平年より弱かった。

熱帯の対流活動は、インド洋、フィリピン海北部、メキシコ南西沖で活発、インドネシア付近で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、月の前半は太平洋から大西洋を東進し、月の後半は振幅の大きな位相がインド洋を東進した。対流圏下層の赤道域では、インド洋と太平洋中・東部で西風偏差となった。対流圏上層では、亜熱帯ジェット気流に沿って波列パターンが見られ、南アジアで高気圧性循環偏差となった。南方振動指数は-0.8だった。

世界の天候

2014年11月の世界の月平均気温偏差は+0.23°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、7番目に高い値となった。11月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.69°C/100年（速報値）である。

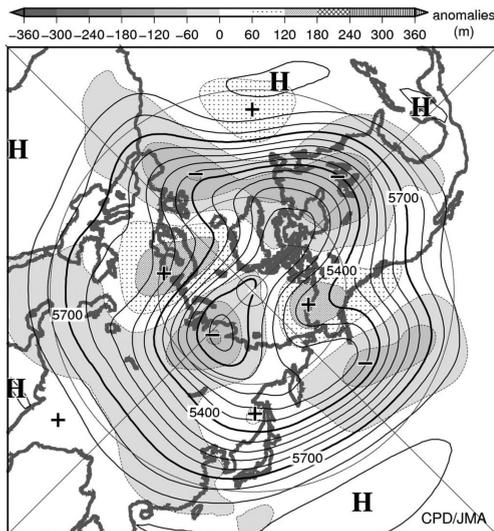
主な異常天候発生地域は次のとおり。

- ヨーロッパ中部～アルジェリア北部では異常高温となった。
- ヨーロッパ南西部～モロッコでは異常多雨となった。
- 米国中西部～メキシコ北東部では異常低温となった。

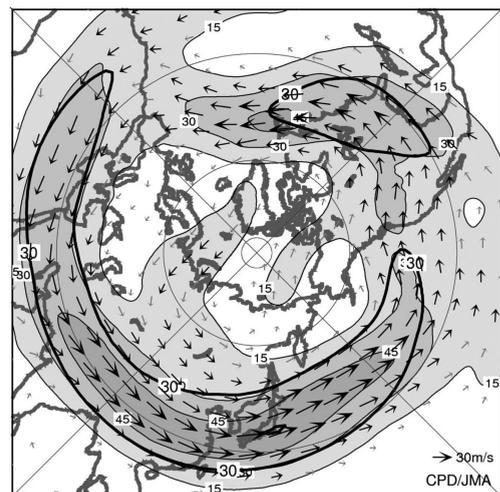
（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

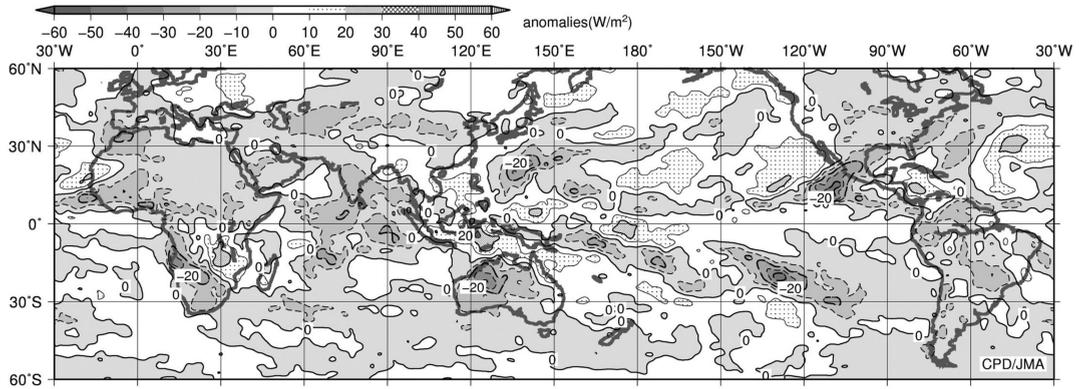
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



2014年11月の北半球月平均 500 hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。

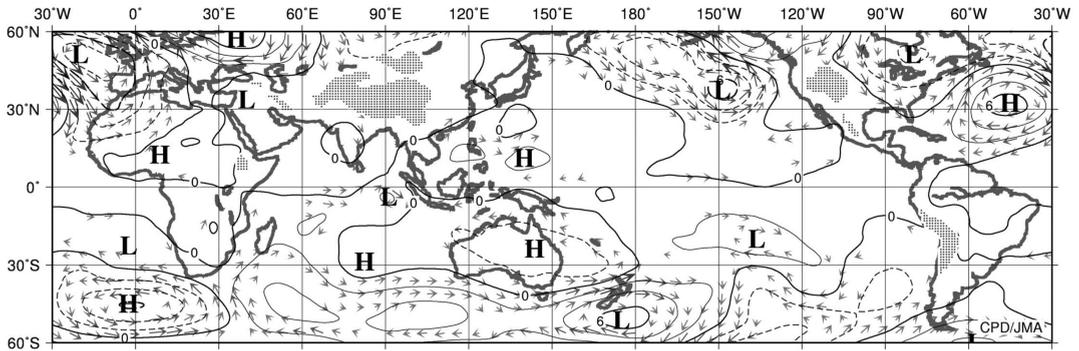


2014年11月の北半球月平均 200 hPa 風速および風ベクトル
等値線間隔は15 m/s。太実線で囲まれた領域は平年の30 m/s以上の領域を示す。平年値は1981～2010年の平均値。

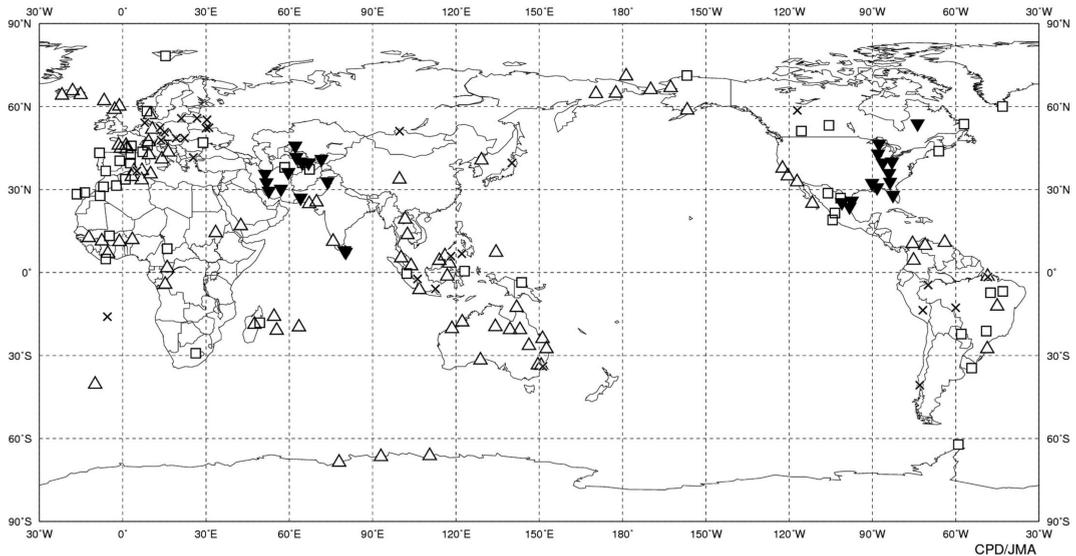


2014年11月の月平均外向き長波放射量年偏差

等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁（NOAA）より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981～2010年の平均値。



2014年11月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981～2010年の平均値。



2014年11月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合，異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。